

エーベルス・パピルス 抜粋

エーベルス・パピルス (Ebers Papyrus) は、前 1550 年頃の作とされる最も大部の医学パピルスである。その内容は主に薬草、鉱物などの内服、魔術による内科的治療で、外科的な治療について触れているところは少ない。心臓血管系と尿路系については、独立した章として解剖・生理学的な知見が述べられている。本稿は、英訳版 [1] からの抜粋である。

記載されている疾患一覧

もちろん当時このような病名があったわけではなく、エーベルスが現代の医学用語に当てはめたものであるが、全身の疾患が広範に網羅されている。「ワニの咬傷」が挙げられている点は興味深い。また眼科疾患の占める割合が多いところも、砂塵の多い土地柄を反映するものであろう。

頭痛	前立腺肥大	蜂・蜘蛛の刺傷	盲
偏頭痛	尿路狭窄	ワニの咬傷	眼瞼炎
めまい	尿路結石	火傷 (1 日目, 2 日目, 3 日目, 4 日目, 5 日目)	癌
便秘	心臓痛・心虚弱	創傷	結膜充血
下痢	動悸	膿瘍	霰粒腫
消化不良	心臓の運動異常	壊疽	白内障
疝痛	アテローマ	膿胞・化膿	眼瞼外反
赤痢	虚弱	月経不順	眼瞼内反
下血	肝疾患	無月経	肉芽
痔核	リンパ節腫大	帯下	出血
肛門の炎症	良性・悪性腫瘍	分娩, 墮胎, 授乳の介助	水眼症
腹部の腫瘍・炎症	脂肪の腫瘍	乳房疾患	炎症
条虫症	皮膚の腫瘍	子宮下垂	虹彩炎
回虫症	神経・血管の腫瘍	女性生殖器の潰瘍・疾患	白斑症
線虫症	禿頭	歯牙の異常	眼筋麻痺
鉤虫症	脱毛	歯槽膿漏・膿瘍	眼裂斑
多尿	フケ症	寒冒	翼状片
頻尿	湿疹	粘膜炎	ブドウ腫
尿閉	膿痂疹	舌疾患	睫毛乱生
膀胱炎	疥癬	聾	
		耳漏, 耳の潰瘍	

便秘の治療

便秘の治療の記載の冒頭部分を以下に示す。薬草による処方が行われているが、当時からすでにヒマシ油の効果が知られていたことがうかがわれる。

体内を清浄化し排泄物を除去する治療

ヒマシ油木の实 1
体内にあるものを全て浄化するために嚙んでビールとともに
飲み干す

別の処方

新鮮なナツメヤシ 1
海の塩 1
Sebbet*果汁 1
水に混ぜ、土器に入れ下記を加える
粉碎した Gengt*豆
混ぜ合わせて温かくして服用し、その後甘いビールを飲ませる

別の処方

ヒマシ油木の葉 1/4
ナツメヤシ 5/6
カヤツリグサ 1/16
ケシ 1/16
コリアンダー 1/16
冷たいビール 1/2
湿潤に保ち、濾して、4日間服用する

別の処方

蜂蜜 1
ゴマ 1
Sesa*の種 1
ヨモギ 1
Uan tree*の実 1
ut'ait fruit*の種 1

(* 対応する現代語訳不明)

分娩の促進・墮胎

胎児の娩出を促進する処方の記載を以下に示す。ペパーミントを塗るといのは何となく理解できるが、それ以外は意味不明である。

女性の分娩を促す処方

ペパーミント
これを背部に塗る

別の処方

ウイキョウ
香
ニンニク
sert* 果汁
新鮮な塩
蜂の糞
これを球にして膣に入れる

女性の体内にあるものを全て墜下させる別の処方

新しいヘヌ容器
温かい油の中で砕き女性の性器に注ぐ

女性の体内の児を弛緩させる別の処方

海の塩
小麦
雌のクサヨシ(鳥)
これを膏薬として塗る

別の処方

亀の尾
カブトムシの甲殻
sefet* 油
sert* 果汁
油
これを混ぜて湿布する

別の処方

新鮮な塩
蜂蜜
濾して1日で服用する

(* 対応する現代語訳不明)

心臓、血管系の解剖、生理

心臓、血管系の解剖、生理を記した章の冒頭の抜粋を示す。意味不明のところも多く、原訳文の問題なのかも知れないが、体の中心にある心臓から各所に血管が張り巡らされ、血液、粘液、精液、尿、空気などを運ぶという考え方を見てとることができる。

心臓の働きと心臓そのものの知識

心臓には身体全体に向かう血管がある。これは、あらゆる医師、あらゆる宗派の司祭、あらゆる魔術師も、頭、後頭部、手、胃部、上肢、下肢に指を当てると感じることができる。その血管は四肢に走っているのだから、どこでも心臓を感じることができる。したがって、心臓は四肢への血管の中心と呼ばれる。鼻孔には4本の血管があり、2本は粘液を、2本は血液を運搬している。両側頭部の内部には4本の血管がある。これらは目に血液を与え、目に開かれているため、あらゆる種類の目の病気がこれを介して起こる。またある権威によれば、眼球の睡眠がこれをもたらす。

頭の中で4本の血管が分かれ、その後部に広がっている。その後、大きな髪の毛を生み出す。鼻に入った息は、心臓と腸に向かい、後者は体を豊かさを与える。もしその下で何かが聞こえたら、それは鎖骨に向かう2本の血管によるものである。もしその下で何かが聞こえたら、それは頬骨の上部にあるもので、人が息を吸うときに入り込む荒い風によるものである。心臓が水を吸収すると、四肢は完全に衰える。心臓を打つとき、これは「ファッサー」という血管で、心臓に水を運び、停止しているときは目に水を運ぶ。口から音が聞える時は、心臓を霧が包んでおりすべての四肢がしびれる。心臓に怒りを生じると、腸と肝臓の一部が沸騰する。

耳が活動しているときは、その熱がすべてを溶解した後、血管は落下する。

耳には4本の血管があり、右側に2本、左側に2本ある。生の息吹は右耳に、死の息吹は左耳に行く。言い換えれば、生の息吹は右側に、死の息吹は左側にある。

上肢には6本の血管がある。右側に3本、左側に3本あり、指までつながっている。

足に行く血管は6本ある。右側に3本、左側に3本あり、足底までつながっている。

精巣に行く血管は2本あり、精液を運ぶ。

腎に行く血管は2本あり、一方は1つの腎に、他方は別の腎に行く。

肝臓に行く血管は4本あり、湿潤と空気を運ぶ。このため、あらゆる病気はここに起こって血液に混じる。

腸と脾臓に行く血管は4本あり、同様に湿潤と空気を運ぶ。

膀胱に行く血管は2本あり、尿を運ぶ。

直腸にゆく血管は4本あり、湿潤と空気を運ぶ。直腸に向かった後、右側と左側の各血管は足にゆく、排泄物に混じる。

【参考文献】

1. Cyril P. Bryan. Ancient Egyptian Medicine. The Papyrus Ebers. (Ares Publishers Inc., Chicago, 1974)